

企業のエコ・アクション vol.03

栃木県立宇都宮女子高等学校

eco委員会

協栄産業株式会社

「ペットボトルは資源!」を合言葉に、高度なECOプラスチック・リサイクル技術で国内の注目を集めている協栄産業グループに、女子高生が訪問!



社長自らリサイクルの仕組みを説明。高校生も熱心に耳を傾ける。

ペットボトルは日本の油田だ!

栃木県立宇都宮女子高等学校で環境活動を行うエコ委員会の有志6名が、ペットボトルリサイクル分野で高い評価を得ている協栄産業グループを訪ね、社長から直接話を聞き、工場を見学。「20世紀は、石油など資源を消費したおかげで世界経済が大きく発展しました。ただ、これからは資源を残すことに力を注ぐ時代です」と協栄産業の社長・古澤栄一さんが話すように、今、「3R」(リデュース・リユース・リサイクル)が世界のキーワードとなっている。その中で、同社が最も力を入れているのがペットボトルをはじめとするエコ・プラスチックのリサイクル。「協栄産業グループでは、みなさんから回収したペットボトルを、異物除去・粉碎・洗浄などの工程を経て適正に処理し、衣服やカーペット、ベンチなどなど、さまざまなものの原料として再生します」

ペットボトルが学生服やベンチなど、さまざまなものに生まれ変わる!



回収されたペットボトルの山。



古澤社長自身が、熱心に、わかりやすく、ペットボトル・リサイクルの最先端について話してくれた。協栄産業を訪れた高校生たちは、口々に「来てよかった!」と絶賛。

ペットボトルのリサイクルと一言で言っても、その工程では高度な技術を要する。同社が生み出す再生原料の品質は世界でもトップクラスだ。

古澤社長はペットボトルのことを「都市油田」と呼ぶ。ペットボトルは元来石油から作られているのだから、再び原料として使えば、これは油田と同じだということだ。日本は石油を外国から買うしかないが、ペットボトルを資源として大切に扱うことで、都市油田を持つことになる。

「ペットボトルはゴミじゃなくて資源。でも、資源として再生させるためにはみなさんの協力が不可欠。飲み終わったペットボトルは、ラベルを剥がし、きれいに洗って、スルメ状に平たく潰して、できれば家庭で分別してください」と古澤社長。「いつかは、都市油田を発端に森を作る、そんなビジネスモデルができればいいね」
(文/坂本智秀)



協栄産業グループでは、スタッフのみなさんの心づかいが至るところに浸透していて、クリーンでハートフルな職場環境を実現。

高校生に記念アルバムのプレゼントも!



<p>片庭瑞姫さん(2年)</p> <p>もっともこのペットボトルの分別意識を高めようと思った。</p>	<p>古宮敬子さん(3年)</p> <p>ペットボトルのリサイクル現場を初めて見た、私が想像していたよりもはるかに作業の工程が多く驚いた。</p>	<p>眞栄田 恵美さん(2年)</p> <p>今日現場を見たことは本当におもしろい。家に帰って家族にも伝えたい。</p>
<p>石原香子さん(3年)</p> <p>リサイクル工場を見学して、自分には知らないことだらけだと感じた。資源における外国との関係についてももっと勉強してみたい。</p>	<p>山根里佳さん(1年)</p> <p>日本のペットボトルリサイクルの技術が高いことを知った。</p>	<p>阿部恭子さん(1年)</p> <p>私たちのゴミ分別がその後のリサイクルを大きく左右することを実感した。</p>